

2010年1月28日(木) 18:00~18:45

【出席者】

代表取締役 副社長執行役員 下宿 邦彦

取締役 常務執行役員 営業本部長 柳澤 憲一

執行役員 開発本部長 村上 誠一

執行役員 経理財務部長 小酒井 健吉

【2009年度第3四半期決算】

< 営業関連 >

レミケード

Q / レミケードの10月、11月の売上と比較して12月が大きく伸びているようだが、これは昨年7月に承認を得た関節リウマチにおける用法・用量の変更(増量、投与間隔の短縮)の影響と考えてよいか?

A / 用法・用量の変更による売上への寄与分は把握できかねるが、増量や投与間隔の短縮は、時期を経るごとに着実に貢献しつつあり、売上拡大につながると共にレミケードの成長に大きく寄与すると考えている。

Q / 乾癬の投与患者数はどれくらいを想定しているか?

A / 国内の推定患者は約10万人で、そのうちレミケードの投与対象となる中等症~重症患者数は5万人弱と推計している。海外における生物学的製剤の処方率は2割程度であることから、日本においても海外と同程度の処方率をめざす。

アンブラーグ

Q / 昨年11月にアンブラーグの後発品が発売されたが、影響は受けているか?

A / 後発品の浸食は想定していたが、当該領域の市場が拡大傾向にあり、その中でアンブラーグも同様に伸びていることから、現時点で大きな影響は受けていないと考える。

ワクチン

Q / 新型インフルエンザワクチンの売上について、当初の計画を上回ったのか?

A / 計画立案時点(下期計画時点)では、新型インフルエンザについての状況が極めて不透明であったため、売上高全体の数値を据え置いた形で業績予想には一定額を織込んでいた。それと比較すると若干上回る実績になっている。

Q / 第4四半期にも出荷されるのか? また、返品リスクを考慮する必要はあるか?

A / 1月も一定量を出荷している。返品については、当局(厚生労働省)、自治体、医療機関との間で決められることであり、当社から回答することではない。

Q / ミールビックの進捗が悪いようだが、計画は達成できるのか?

A / 定期接種として本来接種される時期に新型インフルエンザの影響を受けたため、接種率

が低下している。しかし、新型インフルエンザの感染は峠を越えており、麻しん排除計画に基づく国策でもあることから、年度末に未接種者の駆け込み需要が想定されるため、計画達成に向け注力していきたい。

< 販管費 >

Q / 研究開発費について、第 3 四半期と比較して第 4 四半期の計画があまりにも大きい、導入など特別な計画があるのか？

A / 特別な案件は予定していない。例年並みの傾向であり、計画通り使用する予定である。

Q / 要員適正化を含むコストシナジーの進捗状況は順調か？

A / 2010 年度末までに 240 億円(人件費 100 億円、経費 140 億円)のシナジー創出を達成する計画であり、2008年度末までに 127 億円の実績をあげている。2009 年度も約 60 億円のシナジーを創出する計画で取り組んでいるが、昨今の雇用情勢から要員の適正化は若干進捗が遅れている。

< その他 >

Q / 下期予算レート(ドル)は 95 円/ドルであり、第 3 四半期の実績レートと比較すると円高で推移している。レミケードの輸入等の影響により、為替差益が出ると考えてよいのか？

A / 円高水準が続けば、そのように想定している。

Q / 短期貸付金と預け金の増減要因について説明してほしい。

A / 当社の余剰資金の一部について三菱ケミカルホールディングスグループの金融会社エムシーエフエーに預けて運用している。貸付契約は貸主が借主に一定の期限の利益(=相当の期間)を与えないと返還請求することができないのに対して、寄託契約は寄託者が何時でも返還を請求することができるという点で異なる。当社が行っているエムシーエフエーへの預託は、当社(寄託者)の要請で何時でも資金の出し入れが可能であることから「貸付」よりも「寄託」に該当し、会計士とも相談した結果、実態に即した契約に変更したものである。

【開発関連】

< FTY720 >

Q / ノバルティス社が昨年 12 月に承認申請したことによる一時金が入るのか？ また、上市後のランニングロイヤリティの率はどの程度か？

A / ノバルティス社との契約に関する事項であり、回答できない。

Q / FDA は正式に申請を受理したのか？ また、優先審査を受けることができるのか？

A / 米国での申請については確認しているが、FDA の受理や優先審査については、確認できていない。承認時期については、ノバルティス社(日本)から 2011 年の早い時期の承認を期待しているとのコメントを得ている。

< MCI-196(コレバイン)、MP-146(クレメジン) >

Q / 米国における、MCI-196、MP-146 の臨床試験について、進捗状況と申請のタイミングについて教えて欲しい。

A / MCI-196 については2010年度の申請を予定している。MP-146 については、2011年度に申請したいと考えている。

< MP-424(テラプレビル) >

Q / 日本での臨床試験の投与は終了したのか？ また、試験の終了時期はいつか？

A / 複数の試験について、最終の投与が終了している。今後評価をしていくことになるが、終了時期については、回答できない。

【その他】

< 薬価改定 >

Q / 次年度薬価改定時に、新薬創出加算の対象となる品目は、レミケード、ラジカット、セレジストと考えてよいか？

A / 現時点で当局より通達があったわけではないので不明である。

< エシタロプラム >

Q / 持田製薬から抗うつ薬「エシタロプラム」の共同販売権を取得したが、持田製薬との共同販売になるのか？ また、同じ抗うつ薬である「パキシル」のコプロモーションは、今後も継続するのか？

A / 2社の共同販売となる。パキシルの件について、現時点で当社から回答できることはない。

< メドウェイ問題 >

Q / メドウェイ問題については、どのような状況か？

A / 当局の調査が継続しているため、現段階で当社から回答できない。

Q / メドウェイの事業休止に伴い、特別損失として計上されている事業休止関連損失は、出荷を再開するまでは発生するのか？

A / 主にバイファ社の休止費用であるため、製造活動が再開するまでは発生する。ただし、発売当初から1万例調査を実施しており、低い稼働率になっていた。発生費用のほとんどが固定費であり、立上げ時は、利益が出る状況ではなかった。事業休止に伴い、売上も売上原価も計上されないために特別損失に振り替えたものであり、実損としては大きなものではない。

以上